

平成 30 年度第 1 回庄原市特別支援教育研修会

平成 30 年 6 月 26 日（火） 庄原市田園文化センター

特別な支援を必要とする児童・生徒の適正な就学指導及び特別支援学級における適正な教育課程編成と教科用図書の選定についての周知を目的に、研修会を行いました。

【講話】「特別な支援を必要とする児童生徒の適正な就学指導について」

庄原市教育委員会 教育指導課 学事係長兼主任管理主事 岡崎 敏朗



- ◆幼保小中学校間で就学に関する連携が一層進むよう、就学指導に関する講話を行った。
- ・当該児童生徒の将来的な自立や社会参加のために必要な力を培うという視点で、本人の教育的ニーズ等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する。
- ・就学指導に関しては、保護者、学校間、関係機関等との早めの連携が必要である。
- ・「個別の教育支援計画」等の作成と定期的な見直しを行い、継続的な教育相談を行うことが必要である。

【講話・演習】「特別支援学級の教育課程の編成について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子



- ◆特別支援学級で、当該児童生徒の障害の状況及び発達段階に応じた教育課程を編成する際の留意事項等について周知・理解を図るため、講話・演習を行った。
- ・当該児童生徒の実態把握を十分に行うことが重要である。
- ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいて、教育課程を編成する。
- ・実態に合った適切な指導が行われるよう、指導内容や時数、指導形態等に留意する。

【講話】「特別支援学級で使用する教科用図書の選定について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 小谷 綾子



- ◆特別支援学級で使用する教科用図書選定や事務手続きに係る留意事項等についての講話と、各校が使用している教科用図書の交流を行った。
- ・児童生徒の実態や教育課程と整合のとれた教科書を選定する必要がある。
- ・児童生徒の実態に合った教科書が選定できるよう、事務手続き上のきまりや期間に留意する。

【参加者の振り返りより】

- ・短期、中期的な目標だけでなく、本人の自立を目指した長期的な目標をもち、保護者と連携していく必要性を感じた。
- ・教育課程を編成していく場合は、担任任せにせず、学校体制の中で編成していくことが大切だと感じた。
- ・他校で扱っておられる教科書（一般図書）をたくさん見せていただき、参考になった。